



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 57 号

2008.10.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥竜山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」
の名前をつけています。

も く じ

お知らせ

- － 観察会の日程変更
- － 千町原の草刈り，日程が決定
- － 苅尾第 56 号，お詫びと訂正

活動報告

- － 霧ヶ谷実験地の植生調査

観察会案内

- － サツキマスの観察会
- － ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会

お し ら せ

●観察会の日程変更について

ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会の日程が変更になりました。

11月1日（土）9:30 集合です。

●千町原の草刈りの日程について

11月23日（日）8:30 集合に決定しました。

●お詫びと訂正

苅尾電波塔 56 号のはらっぱ談議の記事中で「山下康二さん」とあるのは間違いで、正しくは「山内康二さん」です。お詫びして訂正します。

●「フィールドガイド 清流 西城川」を出版

水生生物の観察会でおなじみの内藤順一先生を中心に編集された「フィールドガイド 清流 西城川」が出版されました。芸北とはまた違った魅力たっぷりの備北や西城川のすばらしさがよく分かる一冊です。お求めは高原の自然館にてどうぞ。

「フィールドガイド 清流 西城川」
清流西城川編集委員会 210 ページ（フルカラー）
販売価格：1680 円

観 察 会 報 告

● 霧ヶ谷実験地の植生調査

開催日時：2008年9月20日（土）9:30

秋晴れの空のもと、霧ヶ谷実験地の植生調査に14名のみなさんが集まってくださいました。この実験地は、現在行われている霧ヶ谷湿原の自然再生事業を支えてきた重要な場所です。今回で7年目を迎える植生調査となりました。最初に自然館の中で集合し、白川学芸員より、なぜこの調査が始まったのか、またどんな役割を果たしているのか、再生事業地の状況などを、パンフレットをみながら、多岐に渡る説明がありました。植生調査には初参加の方も数名いらっしゃいましたが、みなさん真剣な面持ちで説明に聞き入っていました。調査の前に、去年工事が終了している自然再生事業地を見学しました。水が廻っている様子や、導水路に生き物が生息している様子も見ることができました。子ども達が水の冷たさに驚いていたのが印象的でした。その後実験地に移動し、3班に分かれ、調査開始です。プロット番号の場所を探し、ポールを設置します。1m×1mの範囲の中の植物名をすべて書き出し、高さや状態などを計測します。場所により少しずつ植生が違っていったのが興味深かったです。また、私が調査した場所にはすべてカラコギカエデがあったので、種が良く飛ぶからなのかなと想像しました。ノイバラのとげの痛さと、思った以上の日差しにまいりながらも調査を終えました。その後、今年の工事予定地を見学しました。まだ木を切っただけの為、去年の工事地と比べてみると、ずいぶん殺風景に見えます。これから水を廻すための工事が始まるそうですが、去年の工事地と同様に、湿原化を見守ることのできる貴重な場所です。どんなふうに変化していくのか、楽しみにになりました。霧ヶ谷実験地の植生調査を続けてきたことが、自然再生事業につながっていると実感することもできました。今回で実験地の植生調査は一旦終了し、今度は再生事業地を見ていく予定です。調査に協力してくださいましたみなさま、ありがとうございました。[ころのやよい]



八幡湿原自然再生事業のパンフレットを見ながら、霧ヶ谷湿原のすがたを確認した。



現地にて調査方法を詳しく教えて頂く。



1班は即席班ながら、すらすらと植物名ができて、調査がはかどった。



調査の様子。全ての種の高さを測る。



去年の工事地。湿地生の植物や生物の姿をしっかりと見学した。



全員集合し各班の様子を報告しあう。

【みなさんの印象に残った物】

「植生調査に参加させてもらい光栄でした」「ノイバラのとげ」「トモエソウの大きな実をはじめで見ました」「チダケサシ」「春にも参加しましたが、すいぶん草が丈が高くなった事」「ノイバラに苦しんだ。オタカラコウ、トモエソウが多く嬉しい」「湿地の植物と元からあった植物が混在しているのがよくわかった」「自然館に来るまでに見た自然の豊かさ」「大変なお仕事ですね」「ヨモギ100%が全くなくなっていったこと」

【参加したみなさんの感想（抜粋）】

「やはり植物の名前をしらないとだめですね」「花が終わって葉だけで分かる佐久間さんスゴイ!」「環境の変化により少しずつ植物が変遷していることがよくわかりました」「調査の具体的方法がわかって良かった」「秋とはいえ残暑がきびしく暑い一日でしたが楽しかったです」「ヤブを切って明るくなり緑（草物）の変化していく様子を楽しみにしています」「前回の調査とは又、違った植物が見られて楽しかった」「この辺に今まで来たことがありませんでしたが、広島にもこのような場所があると知るきっかけにもなりとても有意義でした」「初めて調査参加だったので、おどろきました」「変化した所と変化していない所があっっておもしろかった」



調査終了後にみんなで記念撮影。「おつかれさまでしたー」

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳
作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● サツキマスの観察会

開催日時：2008年10月13日(月)9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、小学生以下は無料)

アマゴが海に下り成長したものをサツキマスと呼びますが、八幡では聖湖を海にみたてた降湖型サツキマスが柴木川に遡上してきます。現地の川に行き、実際に産卵の様子を見てみましょう。サツキマスの生活史など、興味深いお話も聞くことができます。秋が深まり気温も下がってきます。室内でも現地でも防寒対策をしっかりとお願いします。

● ゴギの産卵観察会

開催日時：2008年11月1日(土)9:30
集合場所：八幡高原センター
講師：内藤順一
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、小学生以下は無料)

サツキマスよりやや遅れて、ゴギが遡上し産卵を始めます。昨年はメスが産卵床を作る行動や産卵後の「舞の行動」を観察することができました。今回も産卵の様子がじっくりと見られるといいですね。

● ゴギの産卵観察会・紅葉と冬芽の観察会

開催日時：2008年11月1日(土)13:30
集合場所：高原の自然館
講師：斎藤隆登
準備：基本セット、双眼鏡
定員数：30名
参加費：300円(ただし、西中国山地自然史研究会会員は100円、小学生以下は無料)

ゴギの観察会に続いて、紅葉と冬芽の観察会を行います。花が咲いている時期では分からない植物の特徴を、先生お手製の資料を見ながら詳しく観察しましょう。ルーペがあるとさらに細かいところまで観察できおもしろさが倍増になります。冷え込む事が予想されます。防寒をしっかりとお願いします。

今後の観察会予定

2008年
11月23日 千町原の草刈り
12月6日 巣箱・かんじき作り
7日 野鳥の観察
2009年
1月18日 冬を生きる動物たちの生態
2月21日 雪原のトレッキング
3月8日 雪原のトレッキング

編集後記：「太った？」と聞かれることが多くなりました。最近体重計に乗っていないのですが、野外に出ることが少なく、運動もしていないので、そのとおりかもしれません。生態学の研究者が集まる会議に出席すると、すごく焼けていて、痩せている人がちらほら居られるので「この人はフィールドの人だな」とすぐに分かります。食べ物の美味しい季節ですが、みなさんの目が気になるこのごろです。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしております)

高原の自然館(こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原119-1
tel. & fax : 0826-36-2008
<http://shizenkan.info/>
staff@shizenkan.info